

# 学生図書委員だより

No. 10

発行 二〇〇九年十一月  
編集 学生図書委員



## 祝 図書委員だより一周年

なんと、学生図書委員だよりがこの号をもって一周年となりました！二〇〇八年の十一月に唐突に始まったこのお便りが、ここまで続けられたのも、筑紫学園大学の図書館を日々使いやすいよう運営なさっている方々、そして本を愛する図書館利用者のみなさんのおかげです。なにぶん、ほとんどを一人で書いていますので、つたないところもあるかと思いますが、どうぞこれからもご愛読(?)よろしくおねがいます。

## 文豪とお近づき

### 太宰治

名作は数あれど、本当に「今」読んで面白い本じゃなきゃ、読む気は起きません。本はありがたがるためのものではないのですから、いきなり難しい本を読んで投げ出してしまふよりは、読みやすい作家を選んで、少しずつ文章に慣れていってはどうでしょう。

そこでオススメなのはなんと「ロスト」などが入っている短編集をいつても太宰治。読みやすい、わかりやすい、そして面白い、と三拍子そろった文豪初心者のおいしい味方。今年が生誕百年ということもあって、本屋さんの店頭には太宰の本がずらり。

ただし注意がひとつ。初めて太宰の本を読むときは、絶対長編より短編を選んでください。それも、できれば初期〜中期のものを。この頃の太宰作品は、抜群のストーリーテラーぶりがわかる、素晴らしい短編が多いのです。「女生徒」「きりぎりす」「走れメセン」などが入っている短編集を手にとれば、まず間違いはありません。書き出しがうまいのも太宰の特徴なので、本屋さんで冒頭を試してみしてから選ぶのもまたよし！ですよ。

## 特集 きゅきゅつと濃縮短編集！

日本では短編集が売れない、というのは常識だそうです。確かにベストセラーになるのは売れっ子作家の例外を除いて長編ばかり。なんでだろう？

・・・と難しい話はここまでにしておいて。短編集だからって面白い本がないわけではありません。今月は、短い文章にぎゅぎゅつと内容の詰まった、濃い短編集を紹介します。

まずは山田詠美の『風味絶佳』。収録されている全ての短編が、濃厚でいてスマートです。読み口がいいのには味はしっかりというかんじ。おぼろげな男女関係が描かれているのに、読んでいて呼吸の確かな手ごたえのようなものが伝わってくるところが素晴らしい。通常ではありえないような出来事を、あるときは

不条理に、あるときは温かに描く三崎亜記の『バスジャック』は、異色の短編集。バラエティに富んだ内容にびっくりします。さらに、北村薫&宮部みゆき・編『名短編ここにあり』は、短編の面白さが十二分にわかるアンソロジーなので、興味のある人はぜひ。続編に『名短編、さらにあり』も。なんとなく印象の薄い短編集ですが、新潮クレストブックスは短編と相性のいいシリーズらしく、『停電の夜に』『J・ラヒリ』『千年の祈り』『Y・リー』などが話題になりました。ここでは、『巡礼者たち』(E・ギルバート)がおすすめ。人生のな

んてことない一瞬が、鮮やかに切り取られた珠玉の一冊です。でも、日本で短編といえば、芥川龍之介を置いて他にいないよねえ、やっぱ。

今月の二首

たとひは君 ガサツ  
と落ち葉すくふやう  
に私をさらって行つて  
はくれぬか

河野裕子  
無造作に、それで  
いてすばやく。秋の  
日は、あつという間  
に暮れていく。

ちはやぶる神代も  
聞かず竜田川 から  
くれなるに水くくる  
とは

在原業平  
川の水が、紅葉で  
絞ほり染めのように  
なっているだなんて  
神様も聞いたことが  
ないだろうな。



an  
outright  
lie